

研修セッション C 午後（担当：長沼葉月）

当日は、＜支援者のみのカンファレンス用＞＜本人・家族同席カンファレンス用＞の二つのファシリテーションガイドを紹介し、それに合わせて二つのカンファレンス記入シートも配布しました。当日はすべてをご紹介することはできませんので、主に＜支援者のみのカンファレンス用＞ファシリテーションガイドに沿って研修を進めて行きました。

二つのカンファレンス方式に共通している AAA 式多機関ケースカンファレンスの特徴とご紹介したのち、背景にあるリフレクティング・プロセスという対話アプローチや、未来像について話し合うことがなぜ多機関連携のカギになるのかについて少し理論的な説明を行いました。続けて、参加者おひとりから、実際に困っていらっしゃる事例を挙げていただきながら、ファシリテーションガイドに従って適宜解説しながら実際に今後の支援方針についての検討まで行ってみました。事例提供者の K さん、ほんとうにありがとうございました。

今回は公開ケースカンファレンスではありましたが、関係者の方がおひとりのみの参加でしたので、どうしても発言がファシリテーターと事例提供者に偏ってしまいました。実際のケースカンファレンスでは、複数機関の参加者がいらっしゃいますので、多角的な視野での話し合いが発見につながりやすいのですが、今回はどうしても事例提供者に一人で無理やり多角的に考えていただくご苦労があったかと思います。そのため登場人物一人一人の内面を想像するところまではとても時間的にも行きつくことができず、申し訳ありませんでした。

セッション C の終了後アンケートから、AAA 式ファシリテーション多機関ケースカンファレンスシートを用いてカンファレンスを行った場合に期待できる成果・意義について寄せていただいたコメントをご紹介します。

- 🌈 やってきたことの整理がつきやすい。情報の共有ができる。情報の可視化。
- 🌈 マイナスの視点(問題解決)でなく プラス視点で物事を客観的に考えられる。
- 🌈 シートを参加者で見ながら進行できるため、何をすべきか(話し合いの内容)をその都度確認が出来る。そのため進行、検討すべき事項とズレが少なくすむと思います。
- 🌈 丁寧に事実確認が出来る。
- 🌈 順を追って状況の把握から、支援からや本人や養護者それぞれのストレングスや困りごとを可視化することで、視点の違いや価値観の優先順位のちがいを理解した上で、出来そうなことなどを 折り合いをつけることが出来そうです。
- 🌈 支援方法の中がひろがるではないか。
- 🌈 利用者と「うまくいった未来」を目指せる。同じ目標を持つことができる。
- 🌈 CM から「行政は何もしてくれない」という印象を多少ぬぐえそう。
- 🌈 参加者皆で検討したこと、考えたことを共有でき、支援の方向性を合わせていける。異なる

意見も気付ける。

- ✚ シートの使い方を研修で行ってからでないと全体で活用するのは理解の差をうめるのが難しいと思うが、同じ方針で進むのに効果があると考えます。
- ✚ スタッフの経験値がバラバラなので混乱する可能性大。

概ね、肯定的な評価をお寄せいただきました。中には理解の差やスタッフの経験の差から生じる混乱をご懸念なさるご意見もありますね。私どももできるだけそこを埋めるための研修の実施などに取り組んでまいりたいと思いますので、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

さて最後に、アンケートの最後の研修全体の感想に関する部分からケースカンファレンス研修に関する感想と思われるものをピックアップしてご紹介します

- ✚ 事例は 経過の長いケースについてでしたが、対应当初にもその時不足している情報が浮き出てきて、いいのではないかと思います。支援方針に根拠は必ず上げるべきだと思っていたので、皆で考えて可視化できていいと思います。時間がかかるなあと思いましたが、それだけしっかり協議しなければということですね。
- ✚ とくに今回のカンファの聞き方は、ファシリテーターをする立場ながら うまく意見を聞き出せずに悩んでいたのが参考になりました。ありがとうございました。
- ✚ 課題を中心にアプローチすることで世界が広がり、積極的なアイデアがどんどん出てくるのではないかと思います。
- ✚ CMや行政だけでなく 多機関も交えたカンファレンスで AAA の考え方を応用できそうな気がしました。
- ✚ 質問とかしか出ない・あるいは皆が沈黙してしまう地域ケア会議やケースカンファレンスにいつも苦勞しています。その状態から先の話をできるように話を進行していくのはいつも大変です。研修を活かそうと思います。今回の研修で大変大きなお土産をいただきました。ありがとうございました。
- ✚ グループワークで役割を決めたので、もう少し時間がとれたらロールプレイで実施してみても学びがさらに深まったかなと思いました。考え方や方法については大変学びになりましたので、会議運営の際に活用していきたいと思います。

暖かなご意見ありがとうございます。実際にケースを出していただいてケースカンファレンスを最初から最後まで展開できたのでイメージが具体的に湧いた、というご意見を後日スタッフにお寄せくださった方もいました。

長沼は当日は研修とケースカンファレンスのファシリテーションの両方を時間内に収め

ながらある程度オチのつくところまで進めなければいけないというプレッシャーに必死でして、十分に皆様に説明しきれなかったところもありました。それでも色々くみ取っていたき、心からありがたく思いました。

最後に、ロールプレイについても触れていただきました。今回は時間的制約から、ロールプレイまでは行わず、公開ケースカンファレンスの形式で研修を進めました。昨年は CC シートに基づいてロールプレイでケースカンファレンスを行っています。どちらの方が良いのか、AAA 研究会内でも何度か話し合ってきましたが、正直なところどちらにも利点があり、私たちも迷っているところです。おそらくは公開ケースカンファレンスで実際の進め方のイメージの共有を行ってから、ロールプレイでケースカンファレンスを行えたらベストなのでしょう。

今後も AAA 研究会では多機関ケースカンファレンスのファシリテーションに関する研修企画を準備しています。直近では次回のフォローアップ研修です！事例提供も同時募集しています。守秘をご誓約いただける皆様のご協力・ご参加心よりお待ちしております！